

TMU Philosophy Department Special Lecture

東京都立大学哲学教室主催・特別講演

Pauline Sabrier

American University of Paris

(パリ・アメリカ大学)

The Care for the Soul in Plato's *Laches*:

A Traditional Pattern?

(プラトン『ラケス』篇における魂の配慮：伝統的パターンか?)

日時：2025 年 8 月 11 日 (月曜日)

午後 1:30-3:00

場所：東京都立大学南大沢キャンパス 5 号館 134 教室

古代ギリシアの哲学者プラトンは『ラケス』篇において人間の徳の一つである勇気について問い、魂の配慮の重要性を説きました。プラトンの思索はソクラテスの主知主義（「徳は知なり」）を展開しながら、今日の徳倫理学やケアの倫理に多大なる影響を与えています。この度東京都立大学哲学教室では、パリ・アメリカ大学のポリヌ・サブリエ助教授をお招きし、この著作に関する講義をお願いしました。国際プラトン学会のヨーロッパ地区委員でもあるサブリエ助教授は、倫理学のみならず「心の哲学」や知識論とも関連づけて、『ラケス』篇に対するわかりやすくも刺激的な解釈を展開します。

(講演・議論は英語、通訳なし。)

共催：JSPS 科研費 22K00026 (東北大学文学部・荻原理)

問い合わせ先：[栗原裕次 ykuri@tmu.ac.jp](mailto:ykuri@tmu.ac.jp) 東京都立大学人文社会学部哲学教室